第５学年　社会科学習指導案

１　単元名　　これからの食料生産とわたしたち

２　単元について

本単元は、前単元の農業・水産業と関連し、食料生産に関わる学習の最後に位置付く。既習の知識を基に、消費者や生産者の立場から、これからの食料生産について考える構成になっている。単元には、経年変化を表す資料が複数提示されており、数値の増減だけでなく、資料の比較を通して、日本の食文化や農業・水産業がどのように変化してきたかを考えやすい単元である。それらの資料を生かしながら、消費者や生産者等、様々な角度から社会的事象を見ることができ、話合いを通して社会的な見方・考え方を深めることができると考える。

本学級の児童は、日本の農業や水産業における生産量・消費量の減少に関心をもっており、和食から洋食への食文化の変化と関連付けて考えている。資料の読み取りでは、数値の増減を基に、社会の変化について考える力が伸びてきた。一方で、グラフや表を利用した説明が苦手で、根拠がはっきりしない主張や強い主観で事象を捉え発言する児童が見られる。本単元を通して、資料を根拠にしながら、自分の考えを主張したり、他の意見と比べたりしながら、社会的な見方・考え方の育成を促したい。これは、本校の研究する非認知能力「メタ認知」の客観的思考力にあたる。

３　単元の目標

・食料生産について調べたことを、図表や文にまとめ、食の安全・安心の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解できる。　（知識・技能）

・食料生産の課題について情報をまとめ、消費者や生産者の立場等から、農業や水産業の発展について考え、説明することができる。　（思考・判断・表現）

・これからの食料生産について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして継続的に追究し、解決しようとする態度を養う。　（主体的に学習に取り組む態度）

４　研究主題との関連

「食料自給率を上げるためにどうしたらよいか」と単元課題を設定することで、自分なりの見方や考え方で社会事象を捉え、主体的に問題解決をすることができる。　（視点①）

教師が子供の実態を基に授業構想を立て、消費者・生産者の思いや願いにつながる児童の発言を意図的に授業に生かすことで、対話的で深い学びにつなげることができる。　（視点②）

単元中盤の話合いを「○○をすることで食料自給率が上がるのだろうか」とすることにより、自分の意見と他者の意見を聞き合う必要感を生み出し、聞く力の育成につなげることができる。(視点③)

５　単元の計画　（全８時間　本時６時間）

第１次　昔の給食と今の給食を比較し、食生活が豊かになっていることに着目する。７０年間と比較し、食料自給率が大きく低下していることに気付く。（１時間）

第２次　食料自給率が低下した原因や、それによる問題について理解する。（２時間）

第３次　「食料自給率を上げるためにはどうしていけばよいか」を各自で考え、分類し、考えた取り組みが効果的なのかどうか全体で話し合う。（本時３／４時間）

第４次　「これからの日本の食料生産はどうしていけばよいだろうか」について考える。（１時間）

6　本時の学習（6／8時）

（1） ねらい

・課題について話し合うことで、持続可能な食料生産という点において日本が抱えている食の課題を生産者や消費者の立場から多角的に考えることができる。　　（思考・判断・表現）

（2） 展開

学　習　活　動（配時）	・指導上の留意点　◆評価（方法） ※「努力を要する」状況と判断する児童への手立て
1　学習問題について話し合う。全体（３３）グループ（5）	
外国から買う食料品を減らせば、食料自給率は上がるのだろうか。	
上がる ・食料品別の輸入量の変化のグラフを見て分かるように、日本は外国から買う食料品の量がどんどん増えている。減らしたら昔のように自給率は上がると思う。 ・主な食料の自給率のグラフから、日本は外国からの食品に頼りきっていることが分かる。米のようにもっと自分の国で作ったらよいと思う。 ・食品が大量に捨てられていることからも、日本は外国から買わなくてよいのではないか。 上がらない ・米作りや水産業の学習でしたように、日本の農業・水産業の働き手は年々減ってきているから、買う食料品を減らしても生産者は少ないままでは上がらない。 ・土地利用の変化のグラフから、全国の田畑の面積が減ってきているのが分かる。農業をする土地も少ないのだと思う。 ・そもそも、外国から買う食料品を減らすことは難しいと思う。もし、買わなくなったら、給食が昔のようになったり、食べ物が急に高くなったりすると思う。食料自給率が下がっても、輸入の量が増え続けているのは、日本が食べ物を豊かになることを優先してきたからだと思う。	・前時に課題について自分の考えをまとめておくことで、根拠や立場を明確にした話合いができるようにする。 ・「上がる」「上がらない」の二つを板書し、自分の立場にネームプレートを貼ることで、立場を明確にして話し合えるようにする。 ・「生産者」「消費者」の立場や視点、根拠を色分けした板書にすることで、多角的に考えやすくする。 ・資料の一覧をロイロノートで提示しておくことで、根拠を明らかにして話し合えるようにする。 ・食の豊かさの重要性と自給率の向上の難しさついて考える子供を意図的に指名することで、豊かな食生活を求める消費者の思いについて考えられるようにする。 ・グループでの話合いを取り入れることで、全体の話題が焦点化するようにする。 ※　話題が整理できない子供には、論点を示したり、個別に声をかけ、考えを引き出したりする。
2　今日の学習の振り返りを書く。個（7） ・自分は外国から買う食料品を減らせばよいと思っていたけれど、生産者が減っていることや田畑が減っていることまで考える必要があるのだと分かった。 ・自給率を上げるのは難しいが、食品を外国から必要以上に買って、大量に捨てているのは問題だと思う。食べ物の消費の仕方を考えていきたい。 ・食の豊かさは確かにこれからも大事な問題だ。外国産に限らず、給食で滑川産の食品を使っているように、もっと地元の食品のよさを知ったり、食べたりしたいと思った。	◆思考・判断・表現 課題について話し合うことで、持続可能な食料生産という点で日本が抱える食の課題について生産者や消費者の立場から多角的に考えることができる。（ノート・発

（3） 視点

豊かな食生活を求めてきた消費者の思いを考える児童を意図的に指名することが、食の豊かさは人々の願いであり、それを持続することの重要性と難しさを考える手立てとして有効であったか。